

56

欧米諸国の看護婦の紹介記録の歴史を辿る（その2）

——「福田作太郎筆記」を中心に——

鈴木 紀子

看護史研究会／国士舘大学人文科学系博士課程

幕府は条約改正に向けた外交交渉などを目的として、欧米諸国へ数回に渡り使節団を派遣した。使節団員や従者となり西欧社会を見聞する機会に恵まれた者達は、積極的な関心を持って様々な見聞を行い、公式の報告書・意見書・個人の見聞録・覚書などにまとめ、記録を残した。その中には、看護婦の紹介や陸軍病院見学の記録があった。

1862（文久2）年、竹内下野守保徳を正使とする遣欧使節団（以下文久遣欧使節団とする）は、ヨーロッパ締盟国であるフランス・イギリス・オランダ・プロシア・ロシア・ポルトガルの6ヵ国に、開港開港延期交渉を目的として派遣された。この第2回使節団は、当面の目標である外交交渉と併行して、訪問国の政治・経済・貿易・軍事・教育制度など、広義の西洋文明全般にわたる「夷情探索」（ヨーロッパ事情調査）が使命として与えられていた。使節一行には、翻訳方兼医師松木弘安（後の寺島宗則）、翻訳方箕作秋坪、通詞福地源一郎・御雇通詞福澤諭吉らが参加し、病院学校等の調査は、箕作・松木・福澤が担当した。松木・箕作・福澤は、病院および学校を訪問し、見聞した事柄を宿舎で確認し合って記録、最終的に報告書として「大冊」にまとめた。帰国後は、福地源一郎によって公式報告書としてまとめられ、次に勘定役徒目付福田作太郎が筆記したものが「福田作太郎筆記」となった。

「福田作太郎筆記」全27冊中、文久遣欧使節団に直接関係するものは、「英国探索」「荷蘭探索」「仏李葡探索」「欧羅巴行御用留（一）」「欧羅巴行御用留（二）」「欧羅巴行御用留（三）」「魯西亜探索」の7冊であり、「英国探索」にはイギリスの病院に関する調査結果が詳細に記録されている。「英国探索」は、40の題目に分れており、その中に「英国倫敦府病院并学校の事」があり、福澤の『西洋事情』には書かれていない具体的な病室の様子や、ベッド周りの決め事、環境整備の方法などが報告されている。その一部を下記に引用する。

- 一 病人部屋はいづれも清潔にいたし有之、病牀・蒲団等は七日毎に引替候由。且寒気の節カツフル又は蒸気仕掛にて部屋内を温候様いたし有之候。婦人・小児等の部屋には魚鉢・盆石又は草花を植候杯にて、病人の気分を引立相慰め候様に見請候。
- 一 病牀の上には、其名前・病名、并に引請の医師姓名、薬法・飲食等の事を認候札を懸置、
- 一 見いたし候得ば、諸事分明に相知候様致し有之候。
- 一 看病人は惣て婦人を用候。右は飲食の外年々式拾ポント程の給金を請候趣に候。尤病院にて不同も可有之候。数拾人の儀に付其内老人頭立候もの有之、諸事差図いたし候由。

使節団が訪れたイギリスには、すでに150の病院が設立していた。イギリスの病院では、看病人は全て婦人を起用しており、一定の人数に対してその中から監督者を立てて指示を出すシステムがあった。欧米諸国ではすでに人道主義思想、軍陣医学の発展がみられ、陸軍病院における看護制度の整備がなされており、「英国探索」の報告内容は、職業看護婦の概念がなかったわが国にとって、貴重な海外看護の紹介であった。

本研究は、看護史の中では取り上げられてはこなかった「福田作太郎筆記」に焦点を当て、特に「英国医探索」の内容から、海外における看護婦に関する情報として報告された内容を明らかにし、その情報の意義について考察を加える。